

3月になりました

ある昼休みのことです。「春近し」という俳句の季語にぴったりな日でした。私は、「なかよし学園」さん（中国新聞に掲載された三和小学校と一緒に国際的な取組をしてくださっている団体です。）への寄付をお預かりしていましたので、郵便局へ行って学校に帰ってきたときでした。駐車場から歩いて、児童玄関に向かっていると、「あれ、校長先生じゃない？」という声が聞こえます。「どこから、聞こえるんだろう」ときょろきょろしていると、「校長先生〜〜〜」と言いながら手を振ってくれている子供がいます。よくよく見てみると、6年生の女の子たちでした。思春期の入り口に立った、もしくは、すでに思春期に入っているであろう子供たちが、「手を振って挨拶してくれること」その素直さがうれしくなりました。

また、学校の用事で郵便局に行った時のことです、駐車場に入れ違いで出ていく自動車の中で、手を振ってくれている方がいました。近視と遠視と混ざった目でよくよく見てみると、三和小学校の保護者の方でした。ありがたいことだなとうれしく感じました。三和小学校・中学校の保護者の方は、私があいさつをするために校門前に立っているとお子さんを送ってきてくださった車の中から、頭を下げて挨拶をしてくださる方や私が頭を下げると、あいさつをきちんと返してくださる方が多くいらっしゃいます。ありがたいことだなとうれしく感じています。

さらに、地域の行事に行かせていただいた時には、「お 校長先生 よく来てくださいましたねー」と言葉をかけて、歓迎して下さいます。ありがたいことだなと感謝の気持ちでいっぱいになります。

挨拶をすることや、声をかけられることは「自分を大事にされている」と感じることなのだ改めて感じます。

三和小学校では、保護者の方も、地域の方も「挨拶をすること」や「声をかけること」を通して「人を大事にする」ことを誰にでもされていると感じています。保護者の方、地域の方が言葉を交わし合う文化のあるこの地だからこそ、子供たちが素直で伸びやかなのだと思います。

三和小では、三和小ブランドという子どもたちに「こうなってほしい姿」を5つ目標に掲げています。ご家庭の皆さん、地域の皆さんが作られてきた文化の中で育てられてきた素直で伸びやかな子供たちは「がまん強く」「ねばり強く」「みんなと協働して」いくことで「こうなってほしい姿」になってきています。これからも、教職員、子供たちみんなで「がまん強く」「ねばり強く」「みんなと協働して」学校生活を送り、お子様のさらなるよりよい変容を促していきます。

学校は、ご家庭、地域の教育活動と連続、連携した教育活動を基にして、子供たちが社会で生きていくための力を付けていきます。教職員一同、6年間を見通して、心豊かな子供たちを育てていきたいと思っています。今年度も、学校の取組へのご理解、ご協力、応援ありがとうございました。来年度も引き続きよろしく願いいたします。

卒業式・修了式も間近に迫ってきました。まずは、卒業式・修了式を迎えることができることに感謝いたします。卒業式を迎えることができるということは、保護者の皆様、お家の皆様、地域の皆様を始め、多くの方の「おかげ」であることに間違いありません。よい、卒業式、修了式を迎えられるよう教職員一同精一杯取り組みます。

神石高原町立三和小学校 校長 前田 静樹

#### 三和小ブランド（三和小の児童は）

- ・あいさつで周りを元気にします
- ・地域のことを考えて行動できます
- ・困っている人のために行動できます
- ・みんなで協力して問題を解決します
- ・「感謝」の気持ちを「やる気」につなげます



